

**授業概要**

子どもの感性を育み、子どもが環境から感じるイメージを表現する楽しさを養う為には、学生が自身の身体性と環境から受ける感覚や感性を理解し、自己表現を経験する必要がある。表現者として学生が自分自身を成長させ、保育者として表現活動を理解し、子どもの表現を引き出せるように指導する。  
 演目を創作し、模擬保育として指導実施をする事で指導計画・環境設定・言葉かけなどを習得する。

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション、子どもの環境と身体表現
第 2 回	イメージと身体表現
第 3 回	表現あそび からだとかたち
第 4 回	表現あそび からだと動き
第 5 回	表現あそび 感覚あそび
第 6 回	表現あそび 生活場面から
第 7 回	表現あそび 自然あそび
第 8 回	模擬保育準備 作品創作の準備
第 9 回	実技テスト
第 10 回	模擬保育準備 作品を創作する
第 11 回	模擬保育準備 指導法を考える
第 12 回	模擬保育準備 指導案を書く
第 13 回	模擬保育①（対象：3歳児）による模擬保育の実践
第 14 回	模擬保育②（対象：4歳児）による模擬保育の実践
第 15 回	模擬保育③（対象：5歳児）による模擬保育の実践
第 16 回	模擬保育の振り返り、レポート提出

**到達目標**

- ・学生自身も表現者として「感じて・考えて・行動する」力を養う。
- ・子どもの感性・創造性を尊重し、共感し評価できる力を身につける。
- ・子どもを取り巻く環境を理解し、豊かな表現性を引き出す環境を作り出す力を身につける。
- ・模擬保育を通して指導計画・環境設定・言葉かけなどの実践力を身につける。

**履修上の注意**

- ・講義の指定がある時以外は実技である。運動をするのに望ましい服装・身だしなみで受講すること。室内用の運動靴を履くこと。
- ・遅刻は、やむを得ない場合 20 分以内で認めることがある。それ以降は欠席とする。遅刻は 3 回で欠席 1 回と同様の扱いをする。
- ・「保育内容の研究（身体-表現）Ⅰ」の履修者が望ましい。
- ・講義、実技を問わず筆記用具を持参すること。また、ノートを用意すること。（ノート提出有）

**予習復習**

予習：シラバスを確認し、自身の生活や子どもの生活を観察しイメージを膨らます。  
 復習：授業内容をノートにまとめる。

**評価方法**

授業内課題、模擬保育への取り組み、授業態度等の平常点 50%。実技テスト 30%。レポート 20%。

**テキスト**

文部科学省『幼稚園教育要領』  
 プリントを配布する。

【参考文献】

平田智久・小林紀子・砂上史子編『最新保育講座 11 保育内容「表現」』、ミネルヴァ書房、2010年  
 田澤里喜篇著『保育・幼児教育シリーズ 表現の指導法』、玉川大学出版部、2019年